

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

集合知を生み出すために必要なのが心理的安全性である

ピョートル・フェリクス・グジバチ（プロノイア・グループ CEO・代表取締役）

- なぜ心理的安全性が企業の現場で重視されるようになったのか。その背景は大きく分けて2つあると私は考えている。1つは、時代の流れで、個と組織の関係性がぐるっと正反対に変わったことだ。今から20~30年前は組織に入る壁が高く、その壁を乗り越えるために、働き手が頑張って就職活動をするのが常識だった。ところが、今ではそれが世界的にも非常識になりつつある。
- 理由の2つは、デジタルネイティブの若者たちが、1人で自分のブランドを立ち上げて食べていける手段があるからだ。ユーチューバーやデジタルクリエイター、ゲーマーなどだ。その結果、採用する側が頑張らなければならないなくなった。組織の中で自分らしくいられて自己実現できるような環境を整えないと、誰もその会社に入りたいと思わない。そうした環境づくりに不可欠なのが心理的安全性だ。
- 社会的にインパクトを提供していくためには、これまで以上に集合知が必要になってきている。生成AIが進化した今、人間は集合知を集め、テクノロジーにはできない新しい価値を生み出さなければ、仕事をする意味がなくなりつつある。その集合知を生み出すために必要なのが、明確なストラクチャーと相互信頼そして心理的安全性である。

(参考:「週刊東洋経済」2023年9月2日号)

経営者のための理念・哲学

至誠の境地に立てば

田口佳史(東洋思想研究家)

- 「至誠」とは何か。至誠という境地に立てば、何事もその事が起こる前に、何がどの様に起こるかを、あらかじめ予め知ることができるといいます。国家が隆盛になる前には、必ずおめでたいことが前兆としてあり、すいぼう衰亡する前には、必ず禍わざわいの前兆があるものです。それは占いにあらわれたり、重要人物の行いにあらわれたりするものです。
- そこで至誠の人は、禍福かふくが起こる前に、善のことで、不善のことで、必ず前もって見抜いて、禍福の来るのを察知し、戒めることができます。このように、至誠の境地というものは、普通の人間ではとても知り得ない、見抜けないところを見ることができるのですから、まるで神のようなものだ、といっているのです。

(参考:「致知」2023年11月号)

新規成長分野

リーダー層がどんな選択をするかで世の中は変わる 志水雄一郎(フォースタートアップス社長)

- 世界の時価総額ランキングで上位に入るのは伝統企業ではなく、創業して10~30年位の若い会社です。企業や製品には旬があります。約30年前には世界の時価総額ランキング上位50社のうち6割が日本企業でした。戦後の起業家たちが高度経済成長期を経て世界を席卷する会社を作り上げた。それから30年しかたっていないのに、今や上位100社に残っているのはトヨタ自動車だけです。
- 日本はかつて、国策として主力産業を繊維から自動車へと転換させました。国が車と決めたからからそこに多くの人や技術が集まった。部品メーカーを起業しようとか、色々なことを考えて皆が動き、産業競争力が生まれた。日本はそれをやり続けなければならなかったのです。人、特にリーダー層がどんな選択をするかで、世の中は大きく変わります。

(参考:「日経ビジネス」2023年8月14日号)

古典に学ぶ

命は未来永劫えいごう続いていく

- 無限の過去からつながり、無限の未来につながっていく永遠の中に、自分の命はある。だから、私たちは生まれることもなければ死ぬこともない、大きな命として流れ続けるのだ、と空海は説いているのです。なんと壮大な話なので、今ひとつピンとこないかもしれませんが、こう考えてみて下さい。
- 私たちの中には、何千、何万というご先祖様の命が息づいています。肉体は消えても命は脈々と受け継がれ、えいごう未来永劫、続いているのです。

(参考:名取芳彦監修「空海 道を照らす言葉」:河出書房新社)